

令和5年度 町内会長等と市長との懇談会 実施報告書

1 目的

市政情報の発信とともに町内会長等から地域の課題や提言をいただき、各施策に反映させることを目的に、市内13地区の町内会連合会が一堂に会し、懇談会を開催した。

また、本市は、2024(令和6)年で、1924(大正14)年9月1日の市制施行から100周年を迎える。この大きな節目を記念し、当懇談会を市制施行100周年記念事業として開催するに当たり、次の100年の礎となる地域活動を考え合う契機とするため、本年度は「プレ100周年記念懇談会」として開催した。

2 開催日時・会場

- (1) 開催日時 2023(令和5)年12月18日(月) 14:00~16:15
- (2) 会場 市役所 本庁舎2階 特別会議室

3 参加者

出席者数:148名

- (1) 各地区町内会連合会長、町内会長 等
- (2) 市長、副市長、教育長、各部局長
- (3) 市議会議員

4 懇談テーマ

「これまでの地域活動の歩み」

- ・町内会等が取り組んできた地域活動の振り返り
- ・地域の歴史・文化・伝統等の郷土愛の再認識

5 発表

各地区からの発表 次ページ「懇談テーマ一覧」のとおり

懇談テーマ一覧

No.	地区	タイトル	発表者（敬称略）
1	郡山中央	郡山中央町内会連合会の歩み	郡山中央町内会連合会 副会長 坂本 大
2	安 積	オールあさか被災者支援事業	安積町自治会長会 会長 高山 光正
3	三穂田	みほたカフェ&マーケット	三穂田町区長会 会長 佐藤 惣一
4	逢 瀬	逢瀬町区長会が取り組んできた地域活動の振り返り	逢瀬町区長会 会長 柳沼 孝一
5	片 平	片平町の伝統行事「うねめ供養祭」の実施	片平町区長等連絡協議会 会長 鹿又 進
6	喜久田	喜久田町の地域活動の歩み	喜久田町区長会 会長 佐藤 一男
7	日和田	地域の歴史、文化、伝統等の資源を活かしたまちづくり	日和田町町内会長協議会 会長 藤橋 大吉郎
8	富久山	富久山地域の歴史・文化・伝統等の郷土愛の再認識	郡山市富久山郷土史研究会 会長 土田 功
9	湖 南	湖南町の歴史	湖南町区長会 会長 佐藤 宗良
10	熱 海	地域振興の一役を担う「熱海史談会」	熱海町行政区長会 会長 後藤 秋夫 熱海史談会 会長 大内 文一
11	田 村	田園風景が広がる田村町	田村町自治会 会長 猪俣 昭彦
12	西 田	西田町敬老のつどい	西田町区長会 会長 松崎 昭 西田町敬老のつどい実行委員会 委員長 橋本 和夫
13	中 田	中田地区駅伝競走大会	中田町内会連絡協議会 会長 吉田 善守

6 発表に対するコメント

《郡山市》

- ・それぞれの町の歴史は、昔話ではなくで、すべて今に繋がっており、各地区の合併の経緯等を振り返りながら、次の100年について考えるということは非常に意義のあることであり、皆さんと一緒に歴史を次の世代にしっかりと引き継いでいくことは大事である。
- ・各地区において、様々な取組みを実施されている中、文化や伝統など、若い世代に引き継いでいくことで、地域に愛着をもたらすことは地域コミュニティの維持にとって重要であり、町内会の皆様には、学校と連携しながら子どもたちを取り込んだ取組みに協力いただきたい。
- ・各地区の歴史については、郡山の歴史というもので子どもたちも学習しているので、その学習するテキストを改定しながら、次の世代に引き継いでいきたい。
- ・災害対策について、水は低いところに流れるので、国土地理院が公開している3D地図等を活用し、地域内の高い場所、低い場所を確認しておくことも大切である。
- ・各地域、独特の文化を持っており、次の100年に向け、どのようにしてこれらの良き伝統や文化を繋ぎ残していくか市としても考えていく必要がある。

《郡山市自治会連合会》

- ・コロナ禍により数年間、地域の行事が中止となり、再開が難しい状況の中、地域コミュニティを守るため、各地域で様々な工夫や努力をされていることに感謝を申し上げたい。
- ・各地区の町内会等関係者が一堂に会し、それぞれの活動を発表することで、お互いの地域の理解を深め、自分の地域の活動に活かすことのできる良い機会である。
- ・地域の歴史や文化を継承しながら地域の絆を深めていただくとともに、若い世代には仕事や子育てに集中してもらい、仕事や子育てを卒業された人生経験豊富な方々に町内会等の地域活動の中心になっていただくことも地域コミュニティを守っていく上で必要と考える。
- ・最近では線状降水帯の発生により、河川付近に関わらず水害の危険性があることから、町内会活動においても自然災害へ備え、防災訓練や平日頃のコミュニケーションが大事である。
- ・スマートフォンをはじめとするデジタル機器は、コミュニケーションの道具として、当たり前のように使われており、町内会活動の効率化のほか、地域コミュニティに若い世代が興味を持ってもらうためにも、活用していく必要性を感じる。

郡山中央町内会連合会の歩み

【郡山中央地区】発表者（敬称略）

郡山中央町内会連合会 副会長兼事務局長 坂本 大

概要

- ・1983（昭和58）年7月2日、町内会同士の横のつながりが乏しい状況であったため、町内会相互の情報交換や連携を図り、心豊かで活気あふれるまちづくりを組織的に推進することを目的に旧郡山地域と富田、大槻地域を区域とした11連合会、293町内会により発足した。
- ・現在では、26連合会、309町内会が加入し、定期総会や役員会のほか、4つの専門部会を組織し、相互の連携と健全な発展のため、活動を行っている。

活動内容

- ・「総務部会」では、各町内会等の諸課題を集約し、市への要望活動や会報「ごせん譜」を年2回発行し、会員へ情報発信を行っている。
- ・「組織部会」では、新任町内会長を対象とした研修会を開催し、円滑な運営及び町内会同士の繋がりを推進している。
- ・ごみ問題等の環境衛生について取り組む「環境部会」や、防犯・防災や福祉、青少年健全育成等について取り組む「社会部会」では、知識習得のための視察研修や意見交換を行っている。
- ・町内会活動に貢献されている方を称えるため、1985（昭和60）年に「郡山中央町内会連合会表彰」制度を創設し、町内会長や役員として永年地域住民自治の振興と町内会運営に尽力した方々を表彰している。
- ・現在、約4万8千世帯が加入しており、単身の高齢世帯や集合住宅が増えている状況の中、町内会同士の横のつながりを大切にし、助け合いの精神「向こう三軒両隣」を次世代へ継承していくため、今後も連合会結成時の思いを胸に各地区が一丸となって活動に取り組んでいきたい。



新任町内会長研修会



富久山3Rセンター視察研修



町内会に尽力された会員を表彰

オール安積被災者支援事業

【安積地区】発表者（敬称略）

安積町自治会長会 会長 高山 光正

概要

- ・令和元年東日本台風の水害を教訓に、災害発生時に安積地区内の 30 町内会同士が支えあう事業として 2019（令和元）年から開始した。

活動内容

- ・災害発生時に被災状況を各町内会長から情報を収集し、被災状況に応じて各種団体（民生委員や社会福祉協議会等）と連携した支援を実施する。
- ・義援金の協力依頼を実施し、被災町内会へ贈呈する。
- ・支援物資の提供を呼びかけ、衣類や毛布、食器などの生活支援物資の被災町内会への提供を行う。
- ・被害の大きかった地域での炊き出しを実施する。
- ・平時の取組みとして、災害時における財政面での支援が行うことができるよう、安積町自治会長会の予算から毎年「災害特別積立金」の積立を実施している。
- ・安積町の中で唯一、阿武隈川で分断されている神明下町内会は、台風及びゲリラ豪雨の発生により水害の影響が大きい地区であり、指定避難所として協定している帝京安積高等学校と 2017（平成 29）年度から連携し、高齢者等を介助しながらの垂直避難訓練や段ボールバットの設営訓練、炊き出しなどの訓練を行っている。
- ・今後もゲリラ豪雨などの災害が頻発することが想定されるため、高齢者をはじめ要支援者等に配慮し、防災活動の向上に力を入れていきたい。



東日本台風時の支援物資配布



東日本台風時の炊き出し支援



帝京安積高との合同避難訓練

みほたカフェ&マーケット

【三穂田地区】発表者（敬称略）

三穂田町区長会 会長 佐藤 惣一

概要

- ・2017（平成29）年12月、地域の各種団体や福祉関係の事業所等で構成する運営協議会において、将来、「三穂田町に住んでいてよかった」と思える地域づくりを目的に、家にこもりがちの高齢者などの地域住民が、交流や買い物を楽しむとともに、認知症、介護などの相談できる集いの場に取り組んでいる。

活動内容

- ・毎月1回開催していたが、コロナ禍により、一時開催休止を余儀なくされ、令和5年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いが5類に移行されたのを契機に、11月に4年ぶりに開催し、大勢の来場者で賑わった。
- ・カフェでは、だれでも気軽に参加できるように、無料のコーヒー、紅茶、菓子類で参加者同士が飲食しながら会話をし交流を深めている。
- ・マーケットでは、地元の野菜やパン、ケーキ、手工芸品などが並ぶ販売コーナーを設置し、買い物を楽しむことができる。
- ・アコーディオン演奏や福祉事業所職員による体操講座、地域団体の合唱などのステージイベントも開催している。
- ・地域の課題に対して地域全体で向き合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたい。



会話が弾むカフェ



マーケットで楽しくお買い物



みんなで元気に体操

逢瀬町区長会が取り組んできた地域活動の振り返り

【逢瀬地区】発表者（敬称略）

逢瀬町区長会 会長 柳沼 孝一

概要

- ・逢瀬町区長会は、逢瀬町行政区8区長相互の連絡協調を図るとともに、地区内の各種団体との連携を密にし、明るく住み良い地域づくりのため、コロナ禍以前から、地域活動に携わっている。

活動内容

- ・町民大運動会は、町内8区対抗で各種競技を競い、町内の老若男女問わずスポーツを楽しむ良い機会となっている。2023（令和5）年度は、それに代わるものとしてニュースポーツ大会を開催し、グランドゴルフをプレーした。
- ・敬老会は、8地区が一堂に会し、町内で活動する団体の歌やダンスのアトラクション、地元の幼稚園や小学校の協力もあり、楽しいイベントとなっている。
- ・浄土松公園まつりは、台風やコロナ禍により開催ができなかったが、2022（令和4）年に4年ぶりに開催し、2023（令和5）年も、紙飛行機大会、カラオケ大会、ゲートボール大会など様々なイベントにより、市内外の誘客を図り、地域振興に繋げるため開催している。
- ・市民文化祭は、町内各種団体の成果発表の場であり、多田野の鍬柄舞田植踊りなどの踊りや合唱、吹奏楽などの芸能発表のほか、花いっぱい運動表彰式、少年の主張発表を行う等、賑やかなイベントとなっている。
- ・総合防災訓練は、規模を小さくしても継続していくことが大切と考え、避難訓練、初期消火訓練、応急手当等、体験することに重点を置き取り組んでいる。
- ・今後も「できることから始めていこう」と考えを持ち、地域活動に取り組み、明るく住み良い地域づくりに貢献していきたい。



浄土松公園まつり



多田野の鍬柄舞田植踊り



総合防災訓練

片平町の伝統行事「うねめ供養祭」の実施

【片平地区】発表者（敬称略）

片平町区長等連絡協議会 会長 鹿又 進

概要

- ・うねめ伝説発祥の地である片平町は、1971（昭和 46）年8月5日に、伝説が取り持つ縁で、郡山市と奈良市が姉妹都市を提携して以来、毎年8月に奈良市長をはじめとした奈良市親善使節団を迎え、山ノ井公園のうねめ神社において、「うねめ供養祭」を、町を挙げて執り行っている。

活動内容

- ・毎年6月にうねめ観光協会が中心となり、区長会をはじめ、町内の約 20 の活動団体を構成員として「うねめ供養祭実行委員会」を設立し、事前準備、当日の運営、後片付けを行っている。
- ・うねめ供養祭直近の日曜日には、朝6時から関係団体約 60 名が参加し、うねめ神社内の清掃、道路や山ノ井公園の除草作業等を実施するとともに、翌日には、会場周辺に供養祭用ののぼり旗を設置するなど、地域全体で供養祭を盛り上げる準備を行っている。
- ・供養祭では、奈良市親善使節団の到着に合せ、小中高生で結成された「岩代國郡山うねめ太鼓 小若組」の演奏で歓迎するとともに、供養祭を絶やさぬという思いと、うねめ太鼓が永く伝承・発展することを願い演奏を披露している。
- ・うねめ供養祭終了後、うねめ伝説が永く後世に語り継がれること祈り、池に亀の放生を行っており、亀の甲羅に願い事を書き池に放つと願いが叶うと伝えられている。
- ・地域の伝統行事である供養祭を継続し盛り上げていくため、観光協会等、関係団体と協力しながら、認知度向上に取り組んでいきたい。



うねめ太鼓による歓迎の演奏



献花をする葛城王と春姫



願いを込めて亀を放生

喜久田町の地域活動の歩み

【喜久田地区】発表者（敬称略）

喜久田町区長会 会長 佐藤 一男

概要

- ・喜久田町は、明治時代初期までは水利が悪い丘陵地帯であったが、二本松や棚倉、久留米、鳥取、土佐等からの入植者により、安積開拓と安積疏水の灌漑が進み、農業が盛んとなり発展してきた。
- ・「喜久田町お結び会」は、将来においても誰もが安心・安全に住み続けられるまちづくりを目指し、地域住民が中心となり、2015（平成27）年に活動を開始した。

活動内容

- ・「喜久田町お結び会」には、区長会をはじめ、民生児童委員協議会、保健委員会、老人クラブ、婦人会などの地区内の各種団体が参画している。
- ・地区の状況や課題に合わせて、身近な地域での生活支援（地域支え合い）活動等をテーマにワークショップ形式で「喜久田町のために自分たちができること」を話し合う活動を行っている。
- ・住民の高齢化が進む中、一人一人がいきいきと安心して地域で暮らすことができるまちづくりを目指し、地域包括ケアシステムやセーフコミュニティに関連した講演会を開催している。
- ・毎年、会報「お結び会だより」の発行も行い、活動内容について、地域へ情報発信を行っている。
- ・コロナ禍により、3年程活動を停止していたが、2023（令和5）年度から活動再開を予定しており、他の地域の取り組みを参考にさせていただき、地域コミュニティの活性化を図っていきたい。



ワークショップ形式での話し合い



グループごとに議論

地域の歴史、文化、伝統等の資源を活かしたまちづくり

【日和田地区】発表者（敬称略）

日和田町町内会長協議会 会長 藤橋 大吉郎

概要

- ・日和田町の歴史的に価値のある地域資源は、「安積山」、「花かつみ」、「蛇骨地蔵堂」、「高倉人形浄瑠璃」等があり、各団体が主体となって次世代への継承に取り組んでいる。

活動内容

- ・古今和歌集に詠まれている「安積山」は、松尾芭蕉が「花かつみ」を尋ね歩いたとされ、平成 23 年に「花かつみの里づくり協議会」が、「花かつみ」をまちづくりに繋げようと広く PR 活動を始めた。花かつみの盆栽展や写真展の開催のほか、苗の無料配布と栽培指導を行っており、日和田小学校と高倉小学校の児童が、安積山公園と学校の花壇に植栽を行っている。
- ・郡山市指定重要有形文化財の「蛇骨地蔵堂」は、江戸時代後期の建築様式をよく保った仏堂建築であり、「蛇骨地蔵堂保存会」による清掃活動が行われている。
- ・福島県指定重要有形民俗文化財「高倉人形」は、人形浄瑠璃が大いに栄えた江戸時代から高倉地区に常駐していた一座が、明治時代の中ごろに解散してしまい、活動が途絶えたが、その後、人形など道具一式が山清寺に保存されていたことを契機に、人形浄瑠璃文化を次世代へ継承しようと、2017 年（平成 29）年に「復活！高倉人形プロジェクト実行委員会」を設立し、現在は「高倉人形浄瑠璃座」として活動している。
- ・当該浄瑠璃座は、毎年 3 月に開催する定期公演の他、2023（令和 5）年 10 月には地域感謝祭として「人形浄瑠璃の集い」を開催して、多くの町民が「高倉人形」への理解を深めた。
- ・今後も歴史的価値のある地域資源を永く受け継いでいくため、「伝統文化の若い世代の参加と継承」に取り組んでいきたい。



高倉小学校児童による植樹



蛇骨地蔵堂



高倉人形浄瑠璃

富久山地域の歴史・文化・伝統等の郷土愛の再認識

【富久山地区】発表者（敬称略）

郡山市富久山郷土史研究会 会長 土田 功

概要

- ・地域振興のためには、地域の歴史や文化、伝統を知り、郷土愛を持つことが大切であり、地域の団体が主体となって活動に取り組んでいる。

活動内容

- ・地域の花いっぱい運動については、町内の各小学校や、町内会、事業所などが活動実施している。
- ・新春富久山郷土かるた大会については、1951（昭和 26）年の「富久山郷土史研究会」発足記念として会のメンバーにより作成された「かるた」を使用し、かるた大会を始めたのをきっかけとして毎年開催され、コロナ禍のため暫く開催を見送っていたが、2024（令和6）年1月21日に「富久山総合学習センター」で開催予定である。
- ・地域の神社仏閣では、本栖寺（ほんせいじ）は歴史のあるお寺のひとつであり、境内では市指定重要文化財である塔婆を見ることができる。
また、福島県指定重要無形民俗文化財である豊景神社の太々神楽は、春と秋の祭礼（4月と10月）に演じられている。
- ・富久山郷土史研究会では、「故きを温ねて新しきを知る」をテーマに活動して、地域の歴史や文化の伝承に取り組んでおり、古跡案内等を実施している。
- ・地域活動を通じて郷土愛の醸成を図り、地域の歴史や文化、伝統を次の世代に繋いでいきたい。



花いっぱい運動



新春かるた大会



古跡案内

湖南町の歴史

【湖南地区】発表者（敬称略）

湖南町区長会 会長 佐藤 宗良

概要

- ・ 湖南町の近況と歴史・文化について、インフラの整備状況と文化人、特に芸術家を輩出していることから、人物を中心に紹介する。

活動内容

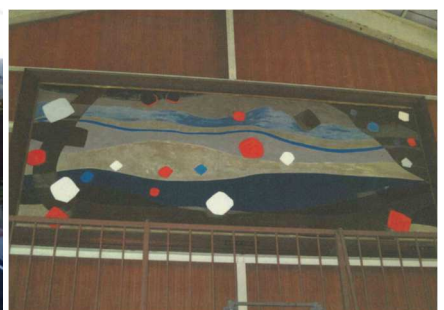
- ・ 湖南町赤津にある布引(ぬのびき)風力発電は、2007（平成19）年の運転開始から16年が経過し、31基ある風車の機器の更新を3年後に行う予定である。
- ・ 県道郡山湖南線が2021（令和3）年11月に全面開通し、その結果、郡山中央スマートインターチェンジから湖南町までの自動車による移動時間が短縮され、利便性が向上した。
- ・ 湖南町福良出身の作家・戯曲家の真船 豊(まふねゆたか)先生は、代表作「鼬」(いたち)の一文が刻まれた記念碑が青松浜にある。湖南訛りの作風が特徴であり、作品は、文学の森資料館にも展示されている。
- ・ 湖南町横沢出身の彫刻家の三坂耿一郎(みさかこういちろう)先生は、作品であるブロンズ像が、街中の公園や歩道に設置されており、優れた芸術品を身近に鑑賞することができる。
- ・ 湖南町赤津出身の画家土橋醇(どばしじゅん)先生は、生前、旧赤津小学校に寄贈した絵画「希望の星」が市立美術館に収蔵され、2023（令和5）年の9月から10月まで美術館において土橋醇企画展が開催された。土橋先生のアトリエは、現在も赤津町にあり、土橋夫人の御厚意で年数回、内部を公開している。



布引高原の風車と向日葵



県道郡山湖南線全面開通



土橋 醇「希望の星」

地域振興の一役を担う「熱海史談会」

【熱海地区】発表者（敬称略）

熱海町行政区長会 会長 後藤 秋夫、熱海史談会 会長 大内 文一

概要

- ・「熱海史談会」は、1963（昭和 38）年、国道 49 号線の新設工事で縄文土器が発見されたことにより、1964（昭和 39）年 9 月に会員 15 名により発足され、現在は会員約 40 名で歴史遺産の環境整備やボランティアガイド、古文書の解読や機関誌の発行等を行っている。

活動内容

- ・石筵地区にある石筵しだれ栗は、県指定天然記念物であり、年 2 回の下草刈りとクリタマバチの殺虫剤散布による保護活動を行っている。
- ・石筵母成峠の砲台跡や塹壕跡は、戊辰戦争時の遺構であり、林道などの周辺環境整備活動や現地ガイドを行っている。
- ・磐越西線旧中山宿駅は、福島県内では唯一のスイッチバックがあった貴重な近代遺産あり、年 1 回の会員総出の草刈り等、環境整備に取り組んでいる。
- ・二本松畠山氏の支城で戦国末期における伊達・蘆名両氏の古戦場となった高玉城跡では、草刈りなど環境整備に取り組んでいる。
- ・史談会の活動は、会報誌や会員間の交流紙「熱海史談会だより」の発行、町内文化祭への出展等、広報活動も行っている。
- ・熱海史談会以外にも熱海町観光協会等の地域団体が、「郷土の伝統や文化を次世代に伝えていきたい」という深い郷土愛をパワー源に、新しい熱海の魅力創出等、地域振興に取り組んでいきたい。



牧草地に自生する「しだれ栗」



旧中山宿駅整備作業



高玉城跡整備作業

田園風景広がる田村町

【田村地区】発表者（敬称略）

田村町自治会 会長 猪俣 昭彦

概要

- ・春は桜、夏は緑豊か、秋は金色の穀倉地帯と紅葉、冬は温暖で、田園風景が広がり、原始時代から人々が住み良い条件を満たしていることから、御代田、正直、山中と遺跡も多く、特に国指定史跡の大安場古墳は、東北地方最大規模の前方後方墳である。
- ・特に谷田川行政区では、やたがわ環境を守る会が中心となり、自然豊かで、歴史や文化のある地域を次世代に繋ぐため、環境美化をはじめ各種活動に取り組んでいる。

活動内容

- ・南北朝時代に東北における南朝の拠点とされ、当時の痕跡を今も残す国指定史跡の宇津峰山は、毎年4月29日山開きしており、多くの登山者が訪れている。
- ・宇津峰山の登山道の整備には、「やたがわ環境を守る会」が中心となって取り組んでおり、ハイキングコースとして親しまれている。
- ・地域には湧き水も多く、宇津峰山の中腹には「御井戸の清水」があるほか、谷田川地区、上道渡地区、下道渡地区、栃山神地区、栃本地区、糠塚地区にもあり、飲料水としても利用されている。
- ・谷田川地区では、「オオサンショウウオ」の生息も確認されており、「エビネラン」の植栽もされており、環境整備とともに地域活性化に取り組んでいるところである。
- ・風光明媚で住みやすい持続可能な地域を目指し、町民一丸となって各種活動に取り組んでいきたい。

西田町敬老のつどい

【西田地区】発表者（敬称略）

西田町区長会 会長 松崎 昭 西田町敬老のつどい実行委員会 委員長 橋本 和夫

概要

- ・2023（令和5）年11月5日、多年にわたり社会に尽力された高齢者に感謝と敬意を表し、西田町在住の75歳以上の方々の長寿を祝うため、敬老会を西田町文化祭と合同開催する「西田方式」で実施した。

活動内容

- ・合同開催に当たり、西田地区社会福祉協議会、西田町区長会等の関係者で運営費やアトラクション等の検討を重ねた。
- ・区長会が、出欠確認を行い、あらかじめ参加者数を把握することで記念品を必要最小限の個数とするなど、限られた予算を効率的に支出できるよう工夫した。
- ・「ねぎや太鼓」の演奏では、孫の勇士を楽しみにしていた、じいちゃん、ばあちゃんの大きな声援があった。
- ・西田学園義務教育学校生徒による「敬老」をテーマとした作文発表では、じいちゃん、ばあちゃんへの感謝の気持ちと、心あたたまる話が紹介された。
- ・根木屋詩吟クラブでは、ハーモニカによる演奏にあわせて、秋の風景となる稲刈りや、ハセに稲をかけるまでの、昔なつかしい情景を再現した寸劇が披露された。
- ・西田コーラスが、素敵な歌声を披露し、最後に会場の皆さんと「里の秋」を合唱し、思いがひとつになる感動が生まれ、91名の参加者に心のこもった「おもてなし」となった。
- ・アトラクションに出演した各団体の中には高齢者の方もおり、敬老のつどいへの出演を目標に元気に練習に取り組み、日ごろの活動の成果を披露することができた。



ねぎや太鼓の演奏



根木屋詩吟クラブの寸劇



西田コーラスの合唱

中田地区駅伝競走大会

【中田地区】発表者（敬称略）

中田町内会連絡協議会 会長 吉田 善守

概要

- ・地域の特色としては、樹齢約 400 年の紅枝垂地蔵桜をはじめ約 20 本の桜が点在しており、柳橋歌舞伎は、江戸時代末期から続く地域の伝統芸能として継承され、また、約 350 年前に始まった海老根手漉和紙を復活させるなど自然と文化が融合した町である。
- ・1954（昭和 29）年に地域の協調、融和、団結を図るため部落の青年団が中心となり、住民の絆を一本のタスキで繋ぐ「駅伝競走大会」が始まり、2023（令和 5）年で第 68 回を迎えた。

活動内容

- ・1953（昭和 28）年、市町村合併促進法が公布され、宮城村と御館村の全村一致による合体合併が進められたが、合併派と反対派の対立が発生し、多くのしこり残しながらも 1956（昭和 31）年に合併が成立し、新たに「中田村」が誕生した。
- ・昭和 20 年代、御館中は中学駅伝の強豪校として、県内にその名を馳せ、その活躍は、村の誇りでもあり、住民から「自分たちも駅伝を走ってみたい、参加したい」といった多くの声があがり、青年団が主体となり、駅伝大会がスタートした。
- ・宮城村と御館村の合併による村民同士の不協和状態が続く状況下でも、御館中学校の駅伝チームは、1959（昭和 34）年度に福島県大会優勝等の結果を残し、子供たちの活躍に感化された地域住民は、青年団を中心に、村民同士の不協和音を打開し、地域の融和を図るため、駅伝大会の継続と参加チームの拡大に奔走し、欠かすことができないイベントとして行われ、現在に至っている。
- ・過疎化、少子化により参加チームが減少する中、走行距離等、児童生徒・住民が参加しやすい環境づくりや参加条件の緩和等、大会継続のため運営の見直しを行っている。
- ・中田町誕生の激動を経て地域の融和を図るため、青年団が中心となってはじまった「中田地区駅伝大会」が、当時の方々の思い、また私たちが未来につなぐ絆を一本のタスキで繋ぎ、未来永劫、続くことを切に願っている。



柳橋歌舞伎



昭和 34 年度県中学校駅伝大会優勝



令和 5 年度中田地区駅伝大会